2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準５	学生の受け入れ【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	博士課程前期課程・修士課程は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、広い視野に立脚した研究能力および高度な職業能力を持った人材を育成するために、下記のような学力および意欲を持った人物を求める。 1. 日本文学・中国学・書道学・英文学・教育学の 5 専攻それぞれの分野での高度で専門的な知識を修得することができる学力を有する人 2. 自国の文化への理解に基づいて人類や世界はどうあるべきかについて広くかつ深く考え、国際社会の発展に寄与しようとする人 3. 既成の価値観にとらわれない独自の問題意識を持って現代の問題を解決せんとする意欲を持っている人 4. 高度で専門的な課題を他者とのコミュニケーションを通して深め、より良い社会を作るために努力していこうとする人 5. 高度な職業人として社会に貢献しようとする人 6. 人類が歴史上において築いてきた良き伝統や優れた芸術を尊重し、それらを後世に伝えていこうと志す人 博士課程後期課程は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、より広い視野に立脚した研究能力および高度な職業能力を持った人材を育成するために、下記のような学力および意欲を持った人物を求める。 1. 日本文学・中国学・書道学の 3 専攻それぞれの分野でのより深くて広範な専門知識を修得することができる学力を有する人 2. 自国の文化への深い理解に基づいて人類や世界はどうあるべきかについて深く考え、国際社会の発展に寄与しようとする人 3. 既成の価値観にとらわれない独自の問題意識を持って現代の問題を積極的に解決せんとする強い意欲を持っている 4. 高度で専門的な課題を他者とのコミュニケーションを通して深め、より良い社会を作るためにたゆまず努力していこうとする人 5. 高度な職業人としての自覚をもって献身的に社会の発展に貢献しようとする人 6. 人類が歴史上において築いてきた良き伝統や優れた芸術を尊重し、それらを後世に伝えていこうと志す人
5-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** 学生の受け入れ方針の策定について【×】

	具体的事例：
5-2	入学者選抜においては、公平性と透明性を確保するために、各専攻において必ず複数の教員が選抜に当たり、さらには文学研究科委員会においても、常に他専攻の委員のチェックを受ける体制をとっている。
5-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）学生募集方法、入学者選抜方法について【×】 具体的事例： （2）入学者選抜において透明性を確保するための措置について【×】 具体的事例：
5-3	文学研究科は全体として、研究科委員会が設定した適切な定員に基づいて学生を受け入れ、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。しかし、収容定員に対する在籍学生数比率については、英文学専攻、書道学専攻を除いた３専攻（日本文学専攻、中国学専攻、教育学専攻）がここ数年、定員を満たしておらず、適正な定員管理ができているとは言えない。 定員の未充足に対する対応としては、大学院進学相談会のいっそうの充実、学内での各教員による学内広報などを積極的に行っている。大学院案内等の資料の充実も試みられている。また、文学研究科の各専攻相互の交流会を実施し、文学研究科全体の活性化を図っている（B5-8）。さらに、日本文学専攻では、2016 年度より「大学院だより」の発行を行い、学部生に配布している。教育学専攻では、留学生の受験資格と試験成績の評価を厳しくした結果、2016 年度は留学生の合格者が出なかったが、この年度に研究生として 1 年間指導した留学生 2 名が 2017 年度に修士 1 年に入学するなど、当初の見通しは実現してきている。但し、内部進学者が少ない状況に変化はなく、なお留学生比率は小さくない点は今後の課題であり続けている。 文学研究科の収容定員に対する在籍者数比率は、博士課程前期課程・修士課程が 0.55 倍、博士課程後期課程が 0.42 倍である。2013～2017 年度入試における入学定員に対する入学者数比率（入学定員充足率）の平均は、博士課程前期課程・修士課程が 0.57 倍、博士課程後期課程が 0.27 倍である（d1-表 4、B5-22 d2-表 33）。
5-3	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）収容定員に対する在籍学生数比率について【○】 具体的事例：大学院進学相談会、各専攻ごとの大学院説明会などを実施し、学生数を増加させるべく努力している。 （2）定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応について【○】 具体的事例：大学院進学相談会、各専攻ごとの大学院説明会などを実施し、学生数を増加させるべく努力している。
5-4	文学研究科の学生募集および入学者選抜が、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかどうかについては、毎年度の自己点検・評価活動において主任会議、研究科委員会で定期的に検証を行っている(B5-11)。
5-4	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** 学生募集および入学者選抜の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

5-1	
5-2	
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	
5-2	
5-3	教育学専攻は、留学生の在籍者の比率が高い（2017 年 5 月 1 現在、在籍者数 4 名のうち、留学生 3 名）ので、日本人の応募者、入学者の数を増やす必要がある。
5-4	

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	5-1　文学研究科として、障がいのある学生の受け入れ方針を策定し、実施する。	障がいのある学生の受け入れ方針を策定し、実施している。	→			A	S	
	5-3　《日本文学専攻》《中国学専攻》					B	B	

	《英文学専攻》《教育学専攻》 安定的な受験者数の確保と定員の充足を果たす。	安定的な受験者数の確保と定員の充足がなされている。						
	5-3　《日本文学専攻》 博士課程の前期、後期ともに、数年にわたって学生定員を充足していないので、それぞれの定員において、5名が適切であるかどうかについて検討し、適切な定員を決める。	博士課程の前期、後期の適切な定員が決定している。			B	B	
	~~5-3　《中国学専攻》~~ ~~哲・文・史の三分野のそれぞれにバランス良く学生が在籍しているようにする。~~ ※進学希望のコントロールは難しいため、削除する（2015年度に削除した）	~~各分野にバランス良く在籍者がいる。~~			—	—	—
	5-3　《教育学専攻》 本専攻の大学院生の日本人と外国人の割合のバランスが取れるようにする。	本専攻の大学院生の日本人と外国人の割合のバランスが取れている。			A	B	
16年度目標	5-3　《日本文学専攻》《中国学専攻》 《英文学専攻》《教育学専攻》 入学定員を安定的に確保する方法についての検討を開始する。	左記の検討内容が文学研究科委員会に報告されている。	→		A		
	5-3　《日本文学専攻》 博士課程前期・後期ともに学生定員を充足していないので、大学院教育に対する学部学生の興味・関心を喚起し、大学院への進学者を増やすための対策を講ずる。	入学者数に増加が見られる。			B		
	5-3　《教育学専攻》 留学生比率の過大状態が再現せぬよう留意しつつ、日本人入学者の確保の努力を継続・改善する。	教員養成制度の改変動向（小中併修・6年制教員養成など）を見通した論議を通して、学部卒業生への進学の働きかけの改善が実施されている。			B		
17年度目標	5-1　文学研究科として、障がいのある学生の受け入れ方針を策定し、実施する。	障がいのある学生の受け入れ方針を策定し、完全に実施している。	→			S	
	5-3　《日本文学専攻》《中国学専攻》 《英文学専攻》《教育学専攻》 安定的な受験者数の確保と定員の充足を果たす。	定員増減についての検討結果をふまえ、実行に移す。2019年度実施を目指す。 必ずしも、現在（2017年度）の定員充足を目指す、ということではない。				B	
	5-3　《日本文学専攻》 大学院への入学者を増やすための方策を始める。学部学生への啓発活動をおこなう。	「大学院だより」の発行・配布（年1回）をおこなう。「大学院説明会」の充実をはかる。学部学生への啓蒙に寄与している。				A	
	5-3　《教育学専攻》 内部進学者の比率を高めるため、学部学生・中高教職課程受講生に対して、先輩に当たる修了生の言葉を掲	相当数の在学生に進学案内リーフレットを配布し、内部進学者確保の努力が行われた。				C	

	載した進学案内リーフレットを作成・配布する。						

Ⅳ　評価専門委員会所見

5-3【現状】適切な定員に基づいて学生を受け入れ、入学定員を適正に管理していることは評価できます。定員未充足に関して、「安定的な受験者数の確保と定員の充足」という目標は掲げていますが、中国学専攻は具体的な改善のための計画が示されていません。また、日本文学専攻は、具体的計画として「「大学院だより」の発行・配布（年 1 回）をおこない、「大学院説明会」の充実をはかる。」となっています。これは今までも同様のことを実施してきているので、プラスアルファの具体策が必要ではないでしょうか。教育学専攻は、17 年度目標に「修了生の言葉を掲載した進学案内リーフレットを作成・配布する。」を設定しており、新たな試みとして期待されます。

Ⅴ　所見への対応

5-3【現状】日本文学専攻では、平成 28 年度より「大学院だより」の刊行・配布を行っている。現在は年 1 回、B4 版 1 枚の体裁である。今後は誌面の充実、インターネット版の作成など、より発展させていきたい。
5-3【現状】中国学専攻では、今のところ大学院全体で行っている方策（大学院公開説明会への参加）しかない。今後文学部中国文学科とも連携し、4 年生のゼミ担当教員をとおして大学院進学を勧める等の方策を考えていきたい。

Ⅵ　次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A5-4　大東文化大学大学院案内 2017　≪既出≫A1-7
A5-5-1　2017 年度大学院入学試験要項
A5-5-2　2017 年度文学研究科推薦入学試験募集要項
A5-7　大東文化大学大学院学則　≪既出≫A1-2
B5-7　大学 HP 大学院入試情報　http://www.daito.ac.jp/education/graduate_school/admission/index.html
B5-8　文学研究科の定員の未充足に対する対応（大学院進学相談会、学内広報など）を証明する資料
B5-11　大学ホームページ（自己点検・評価活動）
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html　≪既出≫B1-16
B5-19　文学研究科教育学専攻修士論文発表会のお知らせ
B5-21　大学ホームページ（情報公開）http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html
≪既出≫B1-6
B5-22　大学データ集　≪既出≫B1-22

＜大学基礎データ＞
d1-表 3　学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者の推移
d1-表 4　学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数

〔追加資料〕